

レッサーパンダの新規導入から繁殖への取り組み

○大川 菜穂美・千場 秀一・岩永 麻里奈・西 佑莉江・溝端 菜穂子・徳島 崇弘・飯富 順子・釜元 彩花・上野 明日香
熊本市動物園

1 はじめに

レッサーパンダは、JAZAの管理計画において新規園館による血統的に優れた個体の受入れと繁殖の推進が求められている。

本園では、これに寄与することを目的として、2022年3月、九十九島動物園森きららよりオス1頭、多摩動物公園よりメス1頭のレッサーパンダを新規導入した。

導入時の準備段階から日々の健康管理、さらに繁殖に向けて行ってきた当園の取り組みについてとりまとめたため紹介する。

2 個体紹介



かぼす オス 4歳



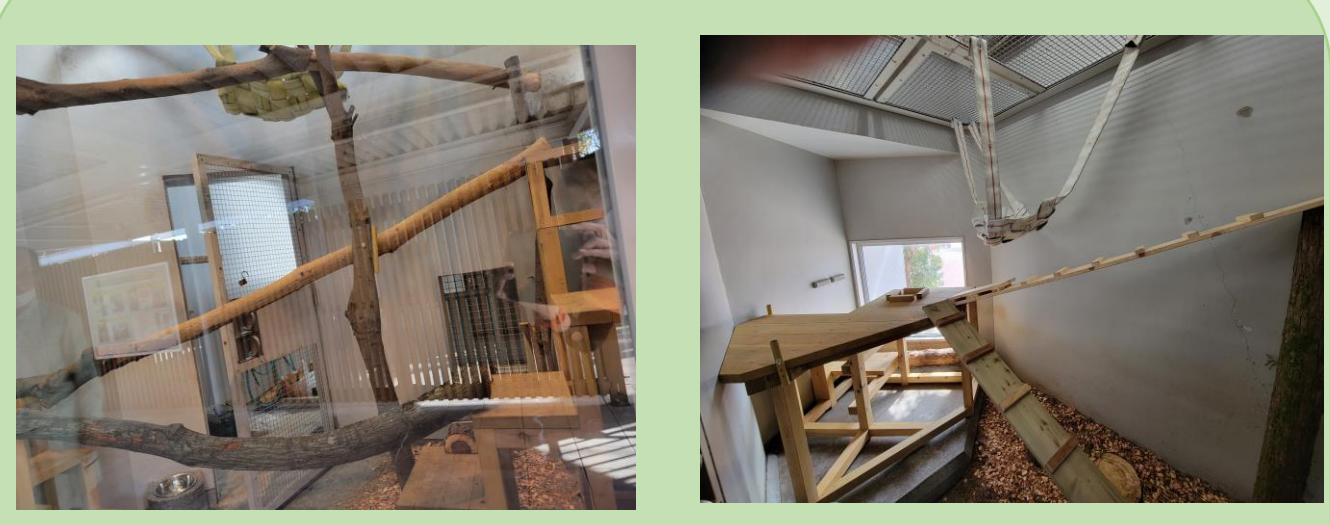
シンファ メス 3歳

3 新規導入の取り組みについて

(1) 環境整備



屋外展示場



屋内展示場 兼 寝室



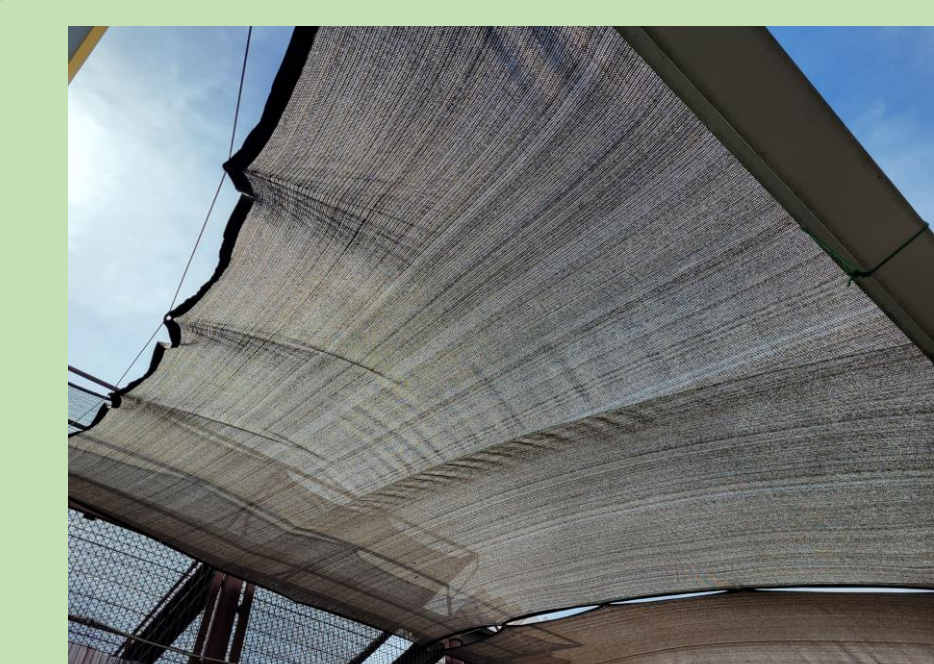
予備室



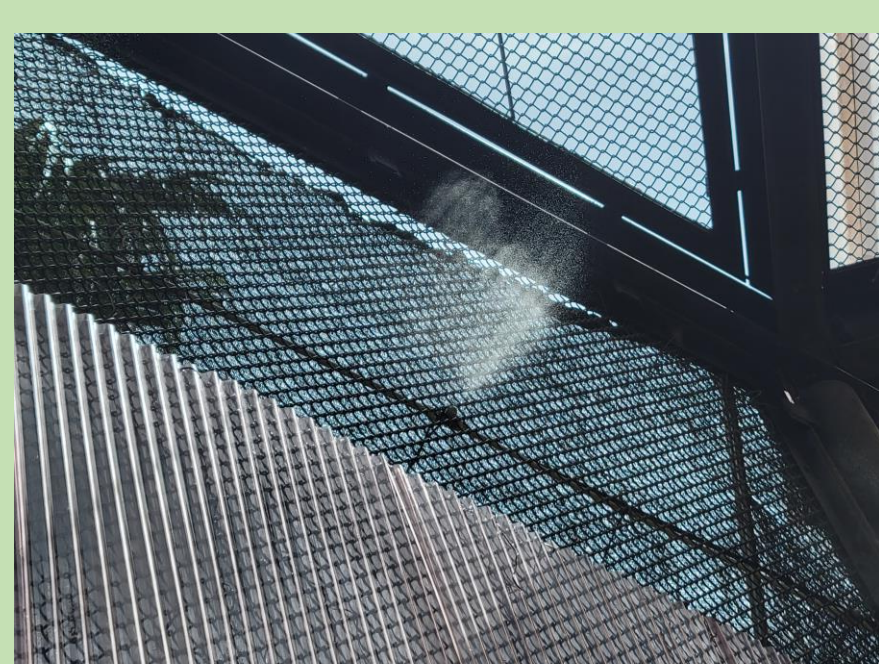
くつろげる場所

園内の伐採木を有効利用として、木組み、丸太を作成、木組みは容易に向きを変えることで行動に変化があることを期待した。

展示場・寝室は不定期に部屋を交代し、お互いの匂いを感じ取ることで、繁殖のための準備とした。



寒冷紗



ミスト



冷風機



ミスト付き扇風機



リンゴアイスキャンディー

夏場の暑さ対策として、屋内と屋外展示場を自由に行き来できるようにした。加えて寒冷紗・冷風機・ミスト・ミスト付き扇風機を設置した。

また、クールダウンとして、アイスキャンディーを与えた。

(2) 飼料の確保



熊本市動物園は平坦な土地にあるため近隣の竹山がなく、笹の入手が困難である。また、笹の搬入業者も少ないため1業者に依存するしかなかったが、笹の嗜好性が強く食べないことがある。笹の安定した供給について、熊本県森林組合連合会に相談したところ、放置竹林問題の対策の一つである森林・山村多面的機能発揮対策交付金を利用し、竹林を管理している団体や地域を支援できるのではないかと提案があった。

結果、園からの要望に応じて、森林組合連合会から周辺の竹林管理団体に呼びかけ、安定的に笹を提供できることになった。現在、協力頂いている活動団体は4団体いる。

4 健康管理及び繁殖への取り組みについて

(1) 健康管理



クレートトレーニング



体温測定



エコートトレーニング



体重測定



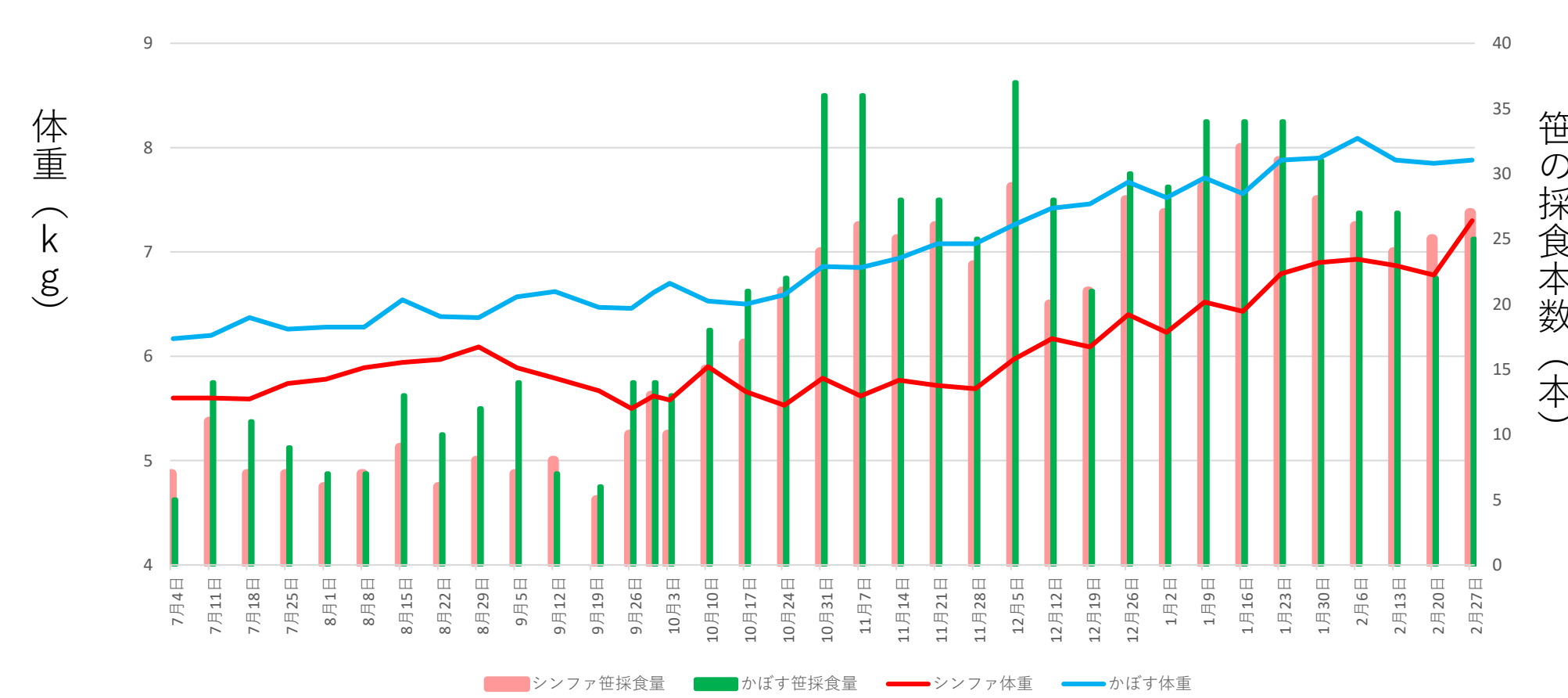
採血トレーニング



※膣スメア採取

2頭のレッサーパンダの健康管理は担当飼育員及び4名の獣医師で実施している。飼育員の指示する場所に来たり、触診、後肢の駆血、先端が鈍になった注射針を用いた採血トレーニング及び採血、肛門での体温測定、エコートトレーニング、膣スメアの採取を実施している。

体重と採食した笹の本数の関係



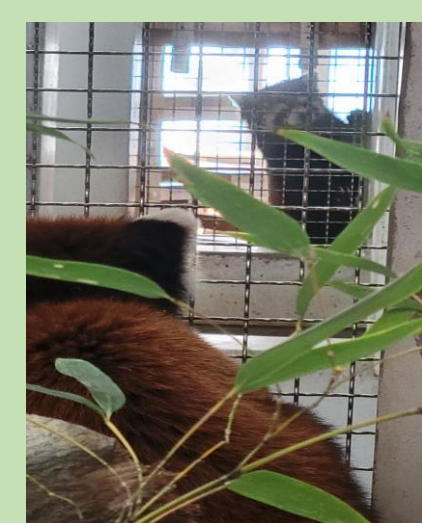
笹70cmを1本とし、週の平均値と、体重をグラフにしてみた。笹の採食量の増加に比例して体重も増加し、繁殖期には更に増加している。レッサーパンダの嗜好にあう笹の調達は大変重要であると考えられる。

(2) 繁殖

部屋の交代を定期的に行うことにより匂いや、気配を感じられるようにした。繁殖シーズンが近づくにつれ、2頭はお互いの存在を気にするようになり、12/13 格子越しに初対面、12/20初同居を行った。当初5分程度の時間から始まり、ストレスを感じるようであれば、数日同居しないということを繰り返した。



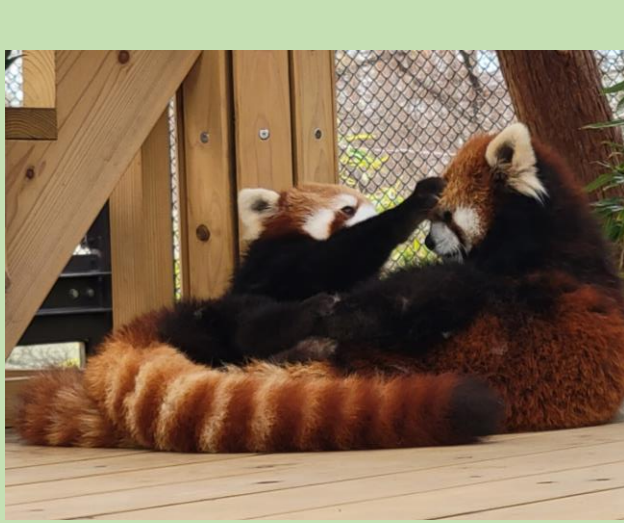
隣を気にする
かぼす♂



初めての対面



同居練習



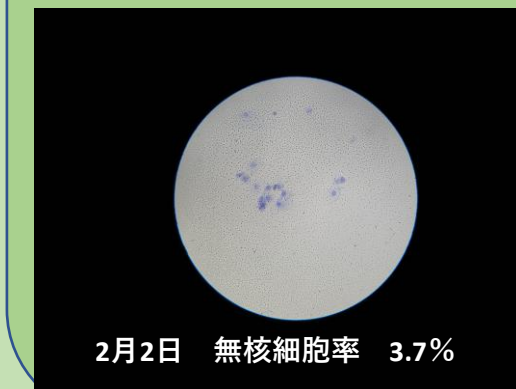
交尾確認

※膣スメア採取

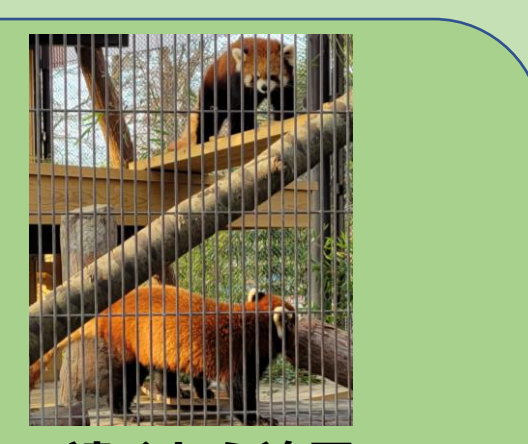
一般的に、発情ホルモンの増加に伴い有核上皮細胞が減少し角化上皮細胞（無核細胞）の割合が増加する。採取細胞に占める無核細胞の割合とその時の2頭の行動と比較したところ、交尾が近づくにつれ、2頭の行動と無核細胞の割合に変化が見られた。



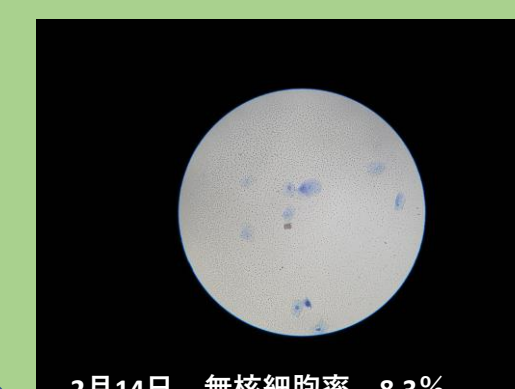
接触



2月2日 無核細胞率 3.7%



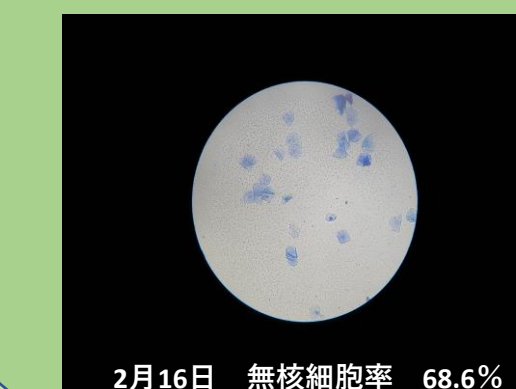
遠くから追尾



2月14日 無核細胞率 8.3%



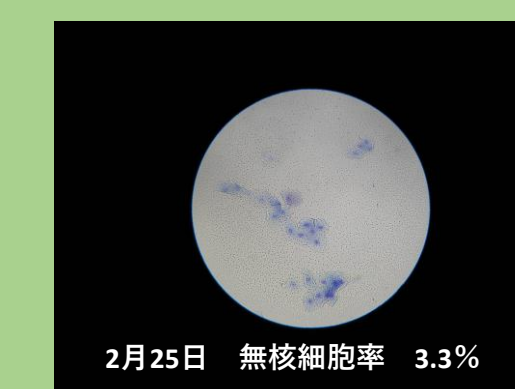
交尾



2月16日 無核細胞率 68.6%



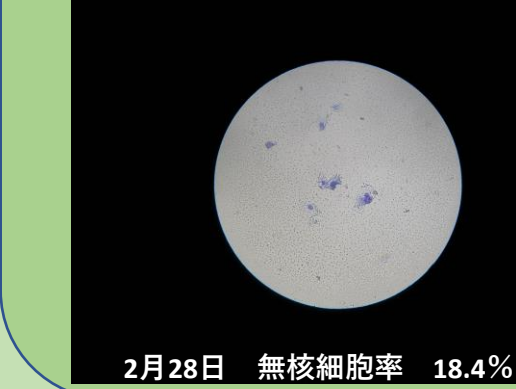
寝ること多い



2月25日 無核細胞率 3.3%



再度 交尾



2月28日 無核細胞率 18.4%

無核細胞の割合は交尾が近づくにつれて増加し、最初の交尾の2/16にピークの68.6%に達した。最初の交尾は2/16~2/18の3日間みられ、その後は発情行動の減少とともに無核細胞の割合は減少した。さらに2/28~3/2に2度目の交尾がみられたが、この時は無核細胞の割合は上昇しなかった。

5 まとめ

導入から約1年、飼育環境の整備や繁殖シーズンに向けた取り組みを行ってきた。新規導入ということもあり、データ収集、観察、トレーニングなどの今後の飼育における基礎作りをした。平常時と繁殖時との比較で、動物の行動変容、体重変動、スメア変化などが連動する部分もあると徐々に分かってきた。今後は妊娠・出産を想定した準備を進めていく。更にデータの蓄積をし、他園館等への情報提供も行い、全国の繁殖管理計画の一助となるように寄与していきたい。